

令和 6（2024）年度

追手門学院大手前中学校・高等学校

学校評価

1

めざす学校像

グローバルな視点とキャリア発達を基盤に、生徒一人ひとりの主体性を尊重し、確かな進路実現を支援するとともに、公共心と社会的責任を自覚し実行できる力を備えた「時代の変革を担うリーダー」を育成する学校

2

中期的目標

追手門学院の教育理念「独立自彊・社会有為」を体現する人材育成をすべての教育活動の根本とする。

①教育の個別最適化による生徒の第一志望進路実現 100%の達成

②グローバルコースにおける教育内容の確立

③安定的な志願者の確保につながるブランド力の向上

【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析〔令和 6 年 11 月実施分〕	学校関係者評価委員会からの意見
○生徒 ・2024 年度の在校生の評価は、15 項目において 2020 年度から 2024 年度の 5 年間で最も高い評価となった。 ・昨年に引き続き「8 問題見逃さず対応」が唯一満足度スコアで 1.00 ポイントを下回った。この項目は長年 1.00 ポイントを上回ったことが無く、改善策の検討が望ましい。 ・「4 学習習慣指導」で 0.22 ポイント、「19 国際教育充実」「22 本校満足」で 0.20 ポイント、昨年度から評価が上がった。 ・「12 クラブ活動」「15 施設設備」で 0.10 ポイント、昨年度から評価が低くなった。 ○保護者 ・多くの項目で過年度に比べ高評価となった。評価の高かった昨年度と比べ評価が低くなった項目は 18 項目だがそのうち 0.1 ポイント以上満足度が下がったものは無い。 ・「4 学習習慣指導」で 0.43 ポイント、「23 成長実感」で 0.13 ポイント、「5 学習意欲を高める工夫」で 0.12 ポイント、昨年度から評価が高くなっている。 ・満足度が 2.0 を超えた項目は「2 安全な学校生活」「11 学校行事」「14 情報発信」「24 事務室対応」の 4 項目。更に「4 学習習慣指導」「5 学習意欲を高める工夫」「11 学校行事」「14 情報発信」「22 本校満足」「23 成長実感」の 6 項目は、2020 年度から 2024 年度の 5 年間で最も高い評価を受けている。 ○教職員 ・2024 年度の教員の自己評価は、9 項目において 2020 年～2024 年の 5 年間で最も高い評価となった。 ・11 項目で昨年度よりも評価が上がっている。 ・昨年に続き「15 施設設備」は 2020 年～2024 年の 5 年間で、最も低い評価となった。 ・「4 学習習慣指導」で 0.26 ポイント、「24 事務室対応」で 0.23 ポイント、昨年度より評価が上がった。	【全体】 ○学校全体で先生方の教育力の向上に努めていただいていることは大変心強い。 ○偏差値に偏らない『コンピテンシー』ベースの授業に大変共感できる。今後も大切にしたい。 ○自習室の充実、0M の積極的な実践をお願いしたい。 ○探究力の向上は今後もぜひ大切にしてほしい。 【進路】 ○年々進学実績が伸びていることに驚いている。今後もぜひしっかりとしたサポートをお願いしたい。 ○大学の推薦枠について質問がなされた。 ⇒大学によって選抜方法は多様化している。ペーパー学力だけでなく広い意味での学力の向上が求められている。推薦枠についても年によって、大学によってさまざまである。 ○追手門学院大学の理工学部について、どのように周知されているのか？ ⇒教授の先生に実際に学校まで来てもらい、教育内容などを話していただいた。来年度以降続けていきたい。 【生活】 ○防災に関しては引き続き意識して取り組んで欲しい。 ○生徒たちのニーズに合った校則の検討をぜひ進めて欲しい。 ○SNS での情報拡散が心配である。悪い情報が蔓延すると悪影響を及ぼすので、注視して欲しい。 ○スマホの指導や声掛けに関して校内での指導のラインを統一して欲しい。 ⇒生徒の不信感につながらないよう全教員でしっかり取り組んでいく。 【働き方】 ○良い人材を確保するためにもぜひ先生方が働きやすい職場作りを推進して欲しい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
①教育の個別最適化による生徒の第一志望進路実現100%の達成	(1) 自習体制の確立 ア 自習室の利用状況や自習時間に関するデータを収集・分析	(1) ア 学期ごとに自習室の利用状況や自習時間に関するデータを収集・分析し、学年毎やクラブ毎の利用状況や成績データを共有し、取組状況等を確認する。	(1) ア ・自習室の稼働率 ・学校評価アンケート(自学の項目) ・大学合格者数	(1) ア 学年・組別で日々の利用人数を把握するだけではなく、生徒たちがどのような質問をチューターに投げかけたかも記録できた。高校3年生のSSコースの生徒を中心に本年度は自習室利用が活発であった。高校2年生以下の生徒たちがその姿を見て自学自習を行うような文化を作っていきたい。また、放課後講習も生徒たちにも非常に好評であり多くの生徒が利用している。
	イ ICT教材の利用状況整理	イ 利用状況等を踏まえ、ICT教材の入れ替え検討を実施し、学習費の枠内で次年度に使用するICT教材を決定する。	イ ・学校評価アンケート(ICT関連項目)	イ 探究を中心に多くの授業においてICT機器の利用に関して問題はないと考える。次年度以降、中学生がタブレットPCとなるため、授業方法に関してもブラッシュアップしていく必要である。また、Google Workspaceを中心に利用しているICT教材は精査されてきている。
	(2) 個別最適化を支える教員力の向上 ア 教員研修の開催	(2) ア インストラクショナルデザイン、モチベート、コーチング、ファシリテートをテーマとした研修の開催やセミナーへの参加、関連書籍の閲読を全教員に課すことをベースとした研究成果の発表会の実施する。	(2) ア ・学内における教員研修会の実施回数 ・校外で行われている各種研修会への参加人数	(2) ア・イ 学習推進部主催で対話をベースとした教育力向上を目的とした教員研修を今年度は7回実施した。これらの取り組みを通して、全教員が教育力を向上させるための何かしらのヒントを得ることができた。今後も教員研修を通して一つでも多くのヒントが得られるように、各種研修やセミナーに参加して得た情報を発信することを継続していく。
	イ 研修計画の再構築	イ 必要な研修内容の洗い出しを行うとともに、次年度以降の研修計画を策定する。	イ ・各研修会後に実施するリフレクション	
	ウ 研修内容の共有	ウ 発表会や研修内容の動画での記録等を継続し、これらを格納するオンデマンド研修システムを確立・稼働させる。	ウ ・学内における教員研修会の内容 ・教科会議での研修会の共有	ウ 今年度は研修案内をGoogle classroomに配信し、参加を希望する教員が自主的に研修に参加するという形式をとった。加えて、次年度は管理職から個別に研修への参加を促すことを積極的に行う。そのために、各教員が抱く課題については、管理職が把握するためのマネジメントを行う。

②グローバルコースにおける教育内容の確立	ア アウトプット力の向上	ア 海外でのアウトプット機会の質を高める手法を確立し、学内教員間での全体共有を図る。	ア ・探究フェスタでの発表 ・海外研修での発表の機会 ・海外から学校視察の学校数	ア 年間通じて取り組んだ各学年の探究の取り組み、各行事における取り組み、高校GA/GS コースの日々の取り組みの成果を『探究フェスタ 2025』にて発表することができた。多くの保護者の方、教育関係者にもご来校いただき、盛大に実施することができ、生徒たちの『探究力・アウトプット力』の向上につながった。 ・学外への発信について、中学３年生の宮古島学習旅行において宮古島市役所職員に対して、高校２年生 GS コースの国内サイエンスキャンプにおいて久米島町長に対してのプレゼンテーションを行った。また、高校２年生 GA/GS コースの生徒によるプロジェクトアワードの地域サミットにおいて発表を行った。 ・高校２年生の SS・特進コースの２チームがクエストカップ 2025 全国大会に出場してプレゼンテーションを行い、グランプリをはじめ多数の賞を受賞できたことは、本校の教育の成果である。 ・高 1GA/GS コースで 11 月に実施した海外探究研修で、高雄市と台北市の学校と交流を行い、各生徒が事前に準備をしたプレゼンテーションを行った。 ・2 月にフィンランドの高校から３名の先生が本校を視察訪問した。フィンランドと日本の教育に関する情報交換を行い、今後も継続的な交流を行う予定である。
	イ 留学プログラムの整備	イ 独自の中期/一年留学プログラムを継続し、海外志向のニーズに柔軟に応えられるように整備する。	イ ・留学プログラムの説明会の参加人数 ・留学プログラムを使っての留学者数	イ 留学に関しても昨年度の倍以上となる 10 名の生徒が実際に留学に行っており、本校の多様な進路選択の取り組みの成果である。

③ 安定的な志願者の確保につながるブランド力の向上	(1) 学校コンピテンシーの具現化 ア 探究力の向上を（一般化）する	(1) ア GA/GS コースの取組内容を他のコースにも波及させ、各教科に年間1本以上のパフォーマンス課題を課すとともに各教科における探究型の学びをテーマとした報告会の開催をする。	(1) ア ・各教科のパフォーマンス課題の共有 ・GA/GS コースのパフォーマンスウィークの内容の共有 ・AI GROW の結果	(1) ア 学校の方針である個別型・協働型・プロジェクト型の学びが浸透しつつあると判断している。引き続きGA/GS コースを中心に、日頃からパフォーマンス課題を課することを広める取り組みを推進する必要がある。今年度もパフォーマンスウィークにおいて、各教科でパフォーマンス課題を課し、目的に沿った成果をあげることが出来た。通常の授業時にパフォーマンス課題を課してルーブリック評価を行っている授業が増えた。GA/GS コースの一部の授業では「教科を教える」から「教科で教える」に移行している。それに伴って、SS・特進コースにおいても通常の授業時にパフォーマンス課題を課してルーブリック評価を行う担当者が増えた。
	イ プロジェクト型教育の整備	イ GA/GS コース3年間の振り返りとして、プロジェクト型の学びの有効性を検証するため、AI GROW の結果と模擬試験の結果のデータ分析を実施する。	イ ・AI GROW の結果	イ 探究力を測定する数理探究アセスメントの結果を比較して探究する上で必要とされる4つの力(課題設定力、実験計画力、考察力、想像力)のすべてにおいて伸びていることが確認できたことから、GA/GS コースにおけるプロジェクト型の学びに一定の有効性があると判断している。
	ウ 探究型授業の実践力向上	ウ 各教科における探究型授業の実践力向上のため、先進的な指導法を学ぶこと及びモデルとすべき授業の公開授業の開催する。	ウ ・探究フェスタの内容	ウ 各教科で教科主任主導の組織的な教育力(授業力)の向上を進めている。また、定例の教科会議とは別に各教科でより良い授業や評価についての対話を目的とした特別教科会議を5月、9月に実施した。GA/GS コースの国語・社会・数学の授業において、探究型の学びの方法論を提案する形の研究授業を1月～2月の間に行い、その研究協議を全教員参加で実施できた。この取り組みを通してモデルとすべき授業の公開授業の開催に向けての弾みをつけることが出来た。さらに、次年度には学外への公開授業を開催する予定である。
	(2) 安心・安全な学校づくり ア リスクマネジメント・クライシスマネジメント体制の整備	(2) ア 学内及び学外関係機関との継続的な連携	(2) ア ・スクールロイヤーへの相談 ・初等中等部との連携 ・部長主任会議での情報共有	(2) ア 定期的なスクールロイヤー相談を積極的に行った。何か問題が生じる前の対策や初期対応前の相談、学校運営が安定した。また、部長主任会議での情報共有の時間を定期的にもつことができた。
	イ 新しい生徒指導・新しい生徒支援の在り方の検討、実践	イ 新しい学びのあり方と生徒指導のあり方を通して検討、必要に応じた具体的なルールの見直し	イ ・教員間・生徒間・生徒と教員間の対話 ・学外での研修会への参加回数	イ 生徒会を中心にルールメイキングについて協議し、外部のイベントにも参加し認識を深めた。また、校則検討委員会を実施し、現状の校則について見直しをはかり、改定も行う。服装検討委員会も実施し、制服の在り方のについても確認し、一部変更に踏み切った。